

学んで守る、旅で伝える

世界遺産アカデミー

WHA MR

メンバーズレポート

World Heritage
Academy

2010年 夏号
第8号



P2～P3…ViewPoint 08 日本ユネスコ国内委員会 事務総長 木曾 功 氏

**世界遺産アカデミーは、文部科学省が取り組む
「ユネスコスクール」の普及活動を応援しています。**

P4…Academy News Report 前ユネスコ事務局総長顧問 服部 英二 氏の特別講演レポート

P5…マイスター見聞録…気になる暫定リスト…

P6…WHAニュース

P7…WHA member file

P8…世界遺産検定勉強法アドバイス



ESDとユネスコスクール そして世界遺産教育

2010年は「国連持続可能な発展のための教育（ESD）の10年」のちょうど真ん中の年にあたります。そこで、今回の巻頭インタビューでは、文部科学省国際統括官で、日本ユネスコ国内委員会事務総長でもいらっしゃる木曾 功さんに、ESDとは何か、ESDとユネスコスクール、そして世界遺産から学べることについてお話を伺いました。

です。

これは、2002年の国連総会で、我が国が提案し決議されたもので、ESDとは「Education for Sustainable Development」持続可能な社会の担い手を育む教育を意味します。今、日本も含め国際社会では、持続可能な社会、つまり、どうすれば環境や経済、そして文化を次の世代に受け継いでいけるか、を考える人間を育むための教育の必要性が強く求められているわけです。ESDと言ってもピンとこない部分もあり、現在は「持続発展教育」と略称していますので、ここから

関連する様々な教育を“持続可能な社会の構築”の観点からつなげ、総合的に取り組むことが必要です。



ESDとユネスコの理念

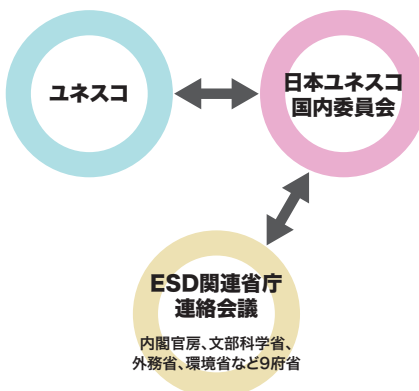
2005年から2014年までの10年間は、ユネスコが推進機関となっている「国連持続可能な発展のための教育（ESD）の10年」

は“持続発展教育”の呼び方で統一させてもらいます。

持続発展教育には、特に二つの観点が必要だと考えています。一つは、「人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと」であり、もう一つが「他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、“関わり”、“つながり”を尊重できる個人を育むこと」です。文部科学省では、小学校、中学校、高等学校の教育の中で持続発展の可能性を考えてもらえるように、学習指導要領の中でも取り上げています。

この“関わり”、“つながり”の重要性の認

わが国のESDの推進体制



識は、ユネスコの理念にもつながります。第2次世界大戦への反省を基に誕生したユネス

コは、ユネスコ憲章の前文で、民族間、文明間相互の無理解が大きな戦争を引き起こしてきたことを指摘し、異文化理解、文明間の対話の必要性を訴えています。そして、無理解を相互理解に変えることで、「心の中に平和の砦」が築かれ、持続可能な世界、つまりは真の国際平和が実現する、としています。自分達だけの便利さの追求、内向きの安住指向は外世界への無関心、無理解を生みだします。“関わり”、“つながり”を理解し、尊重できる人間を育成することは、真の国際平和の実現にもつながるのです。

持続発展教育とユネスコスクール

ユネスコスクールという学校があります。ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校で、ユネスコが認定するものです。2010年6月現在、世界180の国や地域で8500校以上の学校がユネスコスクールに加盟しています。この国際的なネットワークを活用することで、世界中の学校と生徒間、教師間の交流が生まれ、情報や体験を分かち合うことができ、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教

育内容や手法の開発、発展を目指すことができます。

文部科学省と日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールを持続発展教育の推進拠点と位置づけ、国内のユネスコスクール加盟校増加に取り組んでいます。

実は、日本国内のユネスコスクール加盟校は、2年ほど前まで20校ほどでした。現在では、150校を超え、2010年末までには200校を超える学校が加盟していただけるもの、と考えています。2014年、つまり「国連持続可能な発展のための教育（ESD）の10年」の最終年までには500校以上の加盟

を目標としています。一人でも多くの方にユネスコスクールの存在を知って頂き、ユネスコの理念を実現できる教育、つまりは持続発展教育を実践する学校が増えることを願います。

世界遺産から学ぶ 持続可能な社会と環境

ユネスコスクールへの加盟には、ユネスコの理念にあった取組を継続的に実施していることが必要です。現在は、環境教育を取り入れることでユネスコスクールに加盟している学校が最も多いようですが、世界遺産教育もユネスコスクールの研究テーマの一つであ

ESDとユネスコスクールそして世界遺産教育

り、持続発展教育のテーマの一つでもあります。現在、奈良を中心に学校の教育内容に文化財保護を取り入れるなど、世界遺産をテーマとしたプログラムでユネスコスクールに加盟している学校もありますが、もう少し、世界遺産をテーマとして取り組む学校が増えても良いのではないかと思います。

各国、各民族の文化遺産からは自分たちとは違う価値観を学べます。世界には、多様な文化が存在します。文化が違えば価値観も変わります。違う価値観を否定するだけで

は、相互理解は生まれません。違う価値観に出会ったら、その価値観の背景を考えましょう。それぞれの文化は、ぼつんと一人で立っているわけではありません。他の文化と混じり合っていく歴史を持ちながら、現在の文化を形成してきたのです。世界遺産は不動産でなくてはなりませんから、文化遺産も建造物を中心とした“もの”です。しかし、その“もの”を生みだした根本には、その文化の基本を成す精神世界があります。それぞれの精神世界には、他の精神世界と“関わり”、“つ

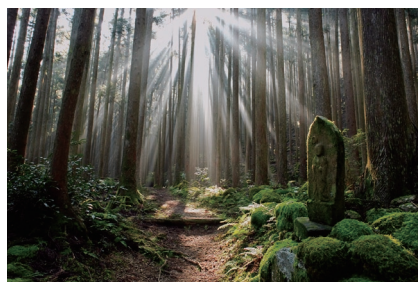
ながり”を持った歴史があるはずです。唯我独尊の文化は無い、ということ学ぶことは、他文化への Respect を醸成するだけでなく、日本文化への理解も深め、自分自身のアイデンティティーを確立することができます。

自然遺産からは、種の多様性を学べるはずです。今年 10 月 18 日から 29 日、「生物多様性条約第 10 回締約国会議＝COP10」が、名古屋で開催されます。種が一つであれば、例えば、パンデミック＝爆発的な感染が発生した場合、一つの種、すべてが減る可能性

が高まります。多様な種が存在すれば、感染を逃れる種が存在すること考えられ、絶滅の危機が免れます。種の多様性、生物多様性とは“個性”と“つながり”を大切にすることとも言えるのです。

これは、文化の多様性にも言えることです。自然も文化も、そして経済も、他とのつながりが無ければ成り立たないのが現在の社会です。まず知ることです。他の文化を知り、地球上の様々な自然環境、生態系を知ることによって問題点も見えてくるはずです。世界遺産を教

材として、いかに生きるべきかを学べるような環境が実現すると素晴らしいですね。



熊野古道大雲取越（写真提供：楠本弘児さん）

コルディリエーラ山脈の棚田と
紀伊山地の霊場と参詣道

私が興味を持つ世界遺産として、まず「コルディリエーラ山脈の棚田」を挙げたいと思います。それは、ピラミッドなどに代表される、長大な建造物ではなく、生活景観と言える棚田と村落から、他文化のすこさを感じ取ることができるからです。文化的景観として評価を受けた生活景観は、イフガオ族が 2000 年という長い時間、営々と稲作を継続してきてはじめて誕生しました。そこに感じ



写真提供：フィリピン政府観光省

取れる時間と精神は、イフガオ族の歴史への Respect につながります。現在、後継者不足で危機遺産リストに登録されていると聞きましたが、生活が変われば、生活景観が変わるのは仕方が無いかもしれません。世界遺産は一つのシンボルでしょう。「コルディリエーラ山脈の棚田」が、万が一無くなっても、世界遺産に登録されていない別の棚田と共に、イフガオ族の歴史と精神は残るはずです。

「紀伊山地の霊場と参詣道」もすごい文化財だと思います。ここも“もの”が中心の文化財ではありません。参詣道という、信仰心、つまりは精神世界が形作った物件が、文化財の中心を構成しているのです。日本の各地には、それぞれの地域の精神世界を表す聖なる山や霊場があるはずです。「紀伊山地の霊場と参詣道」という世界遺産は、日本人の精神世界を代表して世界遺産に登録された、と言っても過言ではないでしょう。

“もの”を見ることでその背景に興味を持

つこと、そして背景にある精神世界の横のつながりを知ること、さらには自然環境や生態系から多様性の重要性を学ぶことは、ユネスコスクールに加盟する条件を十分に満たすばかりではなく、持続発展教育の重要なテーマでもあります。

人類が地球というシステムを壊してしまう可能性は決して否定できません。そのような未来を迎えないために、今、持続発展教育の定着が不可欠なのです。



PERSONAL information

木曾 功（きそ いさお）

日本ユネスコ国内委員会事務総長、文部科学省国際統括官
1976 年、文部省入省。1981 年にエール大学経営大学院にて修士号（MBA）を取得。在フランス日本大使館一等書記官、文部省高等局医学教育課長、広島県教育委員会教育長、文化庁文化財部長、独立行政法人日本学術振興会理事を歴任し、2007 年 7 月より現職。

前ユネスコ事務局総長顧問、服部英二氏の特別講演は 大好評のうちに終了しました。



7月3日（土）、90名を超える参加者を集めた特別講演「文明間の対話と世界遺産～人類の遺産に通底するもの～」が開催されました。

講演者の服部英二先生は、20年以上に及び UNESCO パリ本部におけるご活躍の中で、「シルクロード・対話の道総合調査」を企画実施なさるなど、世界中の文化遺産の調査研究に現場で携わっていらっしゃいました。

かつて「美」は「真」の現れあり、文化が違い、価値観に差異があっても、「真」とは人を人としてあらしめるものと考えれ

ば、底でつながり合う美しさは存在する、服部先生の最初のご指摘です。

世界文化遺産が、各文化を代表する文化財であるならば、そこにはつながり合う美しさがあるはずです。我々が石の家並みにも、日干しレンガの遺跡にも、泥の建物にも美しさを見出すことができるのは、その証拠でしょう。

そのつながりには、2種類ある、服部先生の2番目のご指摘です。2種類とは、高みを目指す各文化が、最終的に似たような形に収斂していくことによるつながりと、情報が伝達されることで文明が変貌し、つ

ながりを持っていく、という2種類です。

今回は、情報が伝達されることで、文明が影響を及ぼし合うことを、具体的な例を挙げながらお話ししました。

エッフェル塔はピラミッドなのか、インドの宇宙観は太平洋を渡り、マヤ文明に影響を及ぼしたのか。フランスの幾何学的庭園がタージ・マハルの四分割庭園を取り入れたものである証拠とは？

服部先生のお話から、情報が伝達されることで、新しい文明が生まれる事を参加者

の方々も深く納得されていたようです。

「文明は出会いによって子を孕む」というロジェ・ガロディの言葉。そして、服部先生の「文明は生き物のように移動し、他と出会い、生成する」という言葉を心から



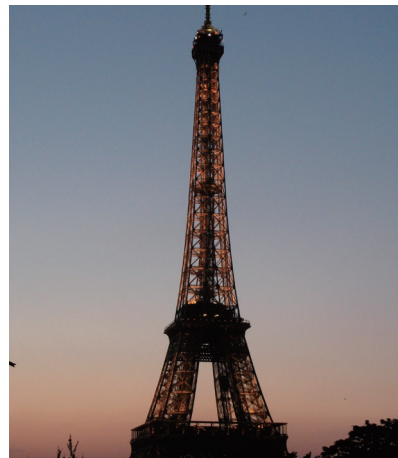
今回の講演は、新企画として、講演後に「服部先生を囲む会」を開催させて頂いた事が特徴でしょう。「服部先生を囲む会」は、16:30から、パレスサイドビル1階「ティールーム花」を貸し切って開催しました。参



加者は25名。会場の大きさからも丁度良い人数で、ワインと軽食を楽しみながら、先生との会話に花が咲いた1時間30分でした。

参加者の皆様は、服部先生に、講演時には聞けなかった質問をしたり、参加者同士の会話で盛り上がり、楽しい時間を過ごされていたようです。

服部先生も参加者からの質問には真剣にお答え頂きましたが、フランスでの生活のお話や、ワインのお話などプライベートな



エッフェル塔（写真撮影：服部英二）



フランス、ヴィエンヌのピラミッドと呼ばれる建造物（写真撮影：服部英二）

実感する事ができたご講演でした。

最後に、UNESCOが2001年に採択した「文化の多様性に関する世界宣言」の第7条にある「およそ創造とは自らの文化伝統に立脚し、他の文化伝統と出会うところに開花するものである」という一文を教えて頂き、我々が世界遺産から学ぶべきもの、世界遺産を通して知るべき事を改めて気付かされた内容の濃い講演となりました。

内容にも話が及び、打ち解けたご様子で、笑顔が絶えない貴重な時間を全員で共有する事ができました。

最後に、服部先生から「機会があれば、是非もう一度、このような場を持ちたい」というお言葉を頂きました。事務局としても、服部先生のご講演と、囲む会を再度開催したいと考えております。

次回開催の際には、改めてご連絡申し上げますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

マイスター 見聞録

…気になる暫定リスト…

暫定リストを見ることで、その国が自国の歴史や文化、そして自然環境をどのように考えているかが見えてきます。世界遺産として次世代に伝えたい、遺さなければならない、と考えている物件を暫定リストに登録していくからです。マイスターが実際に見た暫定リストから各国の考え方を感じ取るとともに、日本の暫定リストに何を追加していくか、みなさんで考えてみませんか。

●ヘミスゴンパ（インド 1998年1月暫定リスト登録）

山下 将則（東京都 世界遺産検定マイスター）

混沌たるインドの都デリーを後にし、ただひたすらに北を目指す。旅人達を集めて定員フル乗車となったインド製4WD車は、断崖に細く刻まれた悪路を猛スピードで駆け抜け、標高5千メートル級のヒマラヤの峠をいくつも超えた。そして高山病で朦朧とした3日目の深夜、ついに広大なインドの最北部、ラダック高原の中心都市レーに到着した。

ラダックは秘境チベット圏の更に辺境に位置し、その分チベット文化がよりよく残っているとされる。ここには郊外に多くのゴンパ（チベット仏教寺院）が点在するが、そのなかでも中心となるのがラダック最大の寺院、ヘミスゴンパだ。高地の青空に映えるその美しい外観は、ラサのポ

タラ宮を思わせる白と茶を用いたチベット仏教伝統の建築様式。極彩色の仏像が鎮座する薄暗い室内は、数十人の僧侶が太鼓や楽器を打ち鳴らしながら無心にお経を読み上げ、幻想的な雰囲気包まれる。匂いにつられて厨房を覗き込むと、料理当番の少年僧は笑顔で中に招き入れてくれた。

厳しい環境においても自分達の宗教・文化を大切にし、人としての温かさを失うことがない、そんなチベット文化にすっかり魅了されてしまった。しかし、チベット文化に関わる世界遺産は驚くほどに少ない。少数民族文化の世界遺産が増えてその理解と注目が高まることは、魅力ある多様な文化を守り伝えていく助けになるのではないだろうか。



●平泉の文化遺産（日本 2001年暫定リスト登録）

小笠原 康人（岩手県 団体職員）世界遺産検定マイスター（世界遺産検定の学習方法教えます!! <http://whstudy.blog119.fc2.com/>）

「平泉」のメイン物件である中尊寺の金色堂を見学しようと境内の入口に立つと、その表参道の急峻な坂に驚かされる。岩手県で生まれ育った私は中学校の遠足で初めてこの中尊寺を訪れた。その時も「この坂、きついなあ。」と思いながら登った記憶がある。

この坂は名称を「月見坂（つきみざか）」という。この坂の両側には、江戸時代に伊達藩によって植樹された樹齢300～400年の杉並木が続く。この並木を歩いていると、現代の喧騒から意識が次第に離れ、奥州藤原氏が栄えた時代にタイムスリップしたような不思議な感覚にとらわれる。私はその感覚を気に入っている。

850年に開かれた中尊寺は、国宝建造物第1

号の金色堂をはじめ、国宝・重要文化財を3,000点以上も伝えている。それも漆工・木工・金工・染織・書と、多種多彩にわたり遺っているということが大きな特色であり、東日本随一の平安仏教美術の宝庫とされている。

2008年、日本で初めて本番の世界遺産委員会で登録延期を勧告されたこの暫定リストは、不本意な形で「有名」になってしまった。2011年の第35回世界遺産委員会で「平泉—仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」と提案名を換え再チャレンジとなる。岩手県民としても、「今度こそ」と登録の実現を祈っている。2010年の夏にイコモスの現地調査が再度入る。月見坂の良さも感じてもらえると思う。



金色堂は、この覆堂の中にある

●ワディ・ラム（ヨルダン 2006年11月暫定リスト登録）

志水 亮介（東京都 会社員）世界遺産検定マイスター（世界遺産検定マイスターの天気予報 <http://ameblo.jp/worldheritage-next/>）

ヨルダンといえば「ペトラ遺跡」「死海」が有名ですが、私にとっては、「ワディ・ラム」こそ今回の旅のハイライトでした。首都アンマンからレンタカーで砂漠のハイウェイをひた走り、憧れのワディ・ラムを目指しました。

持参した地図は縮尺が大きすぎてほとんど役に立たず、そのたびに現地の人に道を尋ねました。そこで、好きな言葉がひとつできました。「One Minute!」つまり「ちょっと待って」という言葉です。彼らはアラビア語がわからない私をなんとか助けてやろうと、英語の話せる人を連れてきてくれました。それも、どこで尋ねても、かならず。

やっとたどりついたワディ・ラムでも、砂漠の民の「優しさ」をヒシヒシと感じました。自然保護

区の入り口にあるキャンプ場で一夜を過ごしましたが、気さくなオーナーに、砂糖たっぷりのハーブの香りが効いたシャイ（お茶）をいただくと、もうそれだけで幸福でした。私が持ってきた家族や日本の寺院・風景の写真を見ながら、しゃべりまくっていたような気がします。

ワディ・ラムは、その独特な砂漠の自然環境と、そこに暮らす人々の文化・風習も含め複合遺産の候補になっています。もし近々ここが世界遺産に登録されたら、心優しい砂漠の民が一転して、「おみやげ物屋」になったり「ガイド」になったりするのかもしれない。

世界遺産になってほしいような、そっとしておきたいような、そんな気持ちで日本に帰ってきました。



ワディ・ラム：「アラビアのロレンス」の舞台



小田陽一先生と巡る トルコ世界遺産と神秘の遺跡を訪ねる旅

2010年9月24日(金)～10月4日(月) 11日間
旅行企画・実施: JTB法人東京 教育第一事業部

小田陽一先生プロフィール 1941年愛知県生まれ。新聞社、出版社勤務を経てフリーランス・エディター、ライターとなる。1982年ヒッタイトの都を見るために初めてトルコを訪れる。以降、アナトリアの遺跡を見学して全土を巡る。トルコ関係著書に、「トルコ紀行・炎天乾風」(朝日ソノラマ)、「イスタンブールが面白い」(講談社)、「トルコ・古代都市を歩く」(平凡社)、「トルコの旅はバスがいい」(京都書院)。現在、東京・新宿でキリム・絨毯の販売業を営みつつ、ガイドブック「わがまま歩きトルコ」(実業之日本社)のディレクターを務める。

アカデミー本格協力 第2弾 トルコツアー紹介

今年の3月に開催され大好評を記したギリシャ世界遺産ツアーに引き続きまして、今秋はトルコ世界遺産ツアーを企画いたしました。ヒッタイト王国時代の壮大な首都遺跡ハットゥシャをはじめ、紀元前の時代から療養地として栄えた白亜の台地パムッカレ。ホメロスの叙事詩「イリアス」で語られたトロイア遺跡や、東西文化の融合したイスタンブールなどを訪れ、神秘的な世界遺産を堪能していただけます。本ツアーには、ガイドブック「ブルーガイドシリーズ」(実業之日本社)のトルコ編を監修された小田陽一ディレクターにも同行していただき、トルコの歴史や宗教文化などを細やかにご案内していただきます。

今回のツアーで訪れるユネスコ世界遺産

ハットゥシャ(1986年登録)

アナトリアを中心に紀元前17世紀～紀元前13世紀に栄華を極めたヒッタイト王国の都。

カッパドキア(1985年登録)

火山地形と人間の営みが産み出した、不思議な岩石の景色。世界遺産の中でも数少ない、「自然遺産」と「文化遺産」双方を併せ持つ「複合遺産」。

パムッカレ(1988年登録)

石灰棚の上にローマ時代に栄えたヒエラポリスの都市遺跡で、パムッカレとは「綿の城」を意味し、白い石灰棚が幻想的な光景を作り出しています。

トロイア遺跡(1998年登録)

ハインリヒ・シュリーマンによって発掘された遺跡として知られ、9層に渡る都市遺跡が発見されトロイア戦争で滅びるまでの繁栄を知ることができます。

イスタンブールの歴史地区(1985年登録)

アヤ・ソフィア聖堂、ブルー・モスク、トプカプ宮殿などを擁する旧市街の歴史的建造物群。2000年近いこの街の栄枯盛衰と東西文化の混交を象徴しています。



カッパドキア・ギョレメ野外博物館

ツアー概要

協力: NPO法人 世界遺産アカデミー

旅行企画・実施: JTB法人東京 教育第一事業部
(観光庁長官登録旅行業第1767号 (社)日本旅行業協会正会員)

旅行期間: 2010年9月24日(金)～10月4日(月) 11日間

旅行代金: 大人お1人様360,000円

(成田空港施設使用料、旅客保安サービス料、海外空港税、航空保険料、燃油特別付加運賃が別途かかります)

食事条件: 朝9回 昼8回 夕8回 (機内食を除く)

募集人員: 30名(最少催行人員15名)

お申込締切日: 2010年8月16日(月)

ツアーコーディネーター: 小田陽一氏が同行します

添乗員: 添乗員は同行しませんが現地にて係員がお世話致します

お問い合わせ先:

JTB法人東京 教育第一事業部営業一課
TEL: 03-5909-8012 / FAX: 03-5909-8017
[営業時間] 9:30～17:30 (土日祝日休み)
〒163-1026 東京都新宿区西新宿3-7-1
新宿パークタワー S棟26階
担当: 宗本・高野

「水のある情景」 鍋島道雄 写真展

2010年7月16日(金)～22日(木) 賛助会員 鍋島道雄



鍋島道雄 写真展

私は世界巡りを始めて33年間で「70カ国」を旅してきました。今回の個展は、最近訪れたなかで、とくに印象に残ったヨーロッパ・アジア・中南米の「水のある情景」を撮影したものです。「水」をテーマにしたのは、水のある情景を眺めると、心が安らぎ、気持ちが落ち着くからです。水のある情景に出会い、刻々と変わる場面を見ながら光と影や色、背景をとらえてシャッターを切っています。これからも写真を楽しみながら心を豊かにしたいと思っています。ぜひご覧ください。

日時: 2010年7月16日(金)～22日(木)
AM10:00～PM7:00 (最終日PM2:00)

会場: 富士フィルムフォトサロン大阪
〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町3-5-11
富士フィルム大阪ビル1F
TEL: 06-6205-8000 / FAX: 06-6205-8100
<http://www.fujifilm.co.jp/photosalon/osaka/>

「世界遺産アカデミー関西交流会」のメンバーは、現在会員数約30名で月に1回ぐらい世界遺産の見学会や食事会を催しています。

次回の関西交流会開催は、7月18日(日) 19時より梅田のペルー・メキシコ料理「ロスインカス」にて。ご連絡は重藤(携帯090-3717-9552)へ16日(金)までお願いします。



NO.024 あの雄姿を再び。奇跡の白鷺城—姫路城



姫路城三の丸広場

Personal Data

正会員

小林 一彦

(埼玉県 世界遺産検定マイスター)

4月上旬、私たち夫婦は姫路城を訪れました。天候にも恵まれ、桜の季節と重なって大変美しい姫路城を見る事ができました。

姫路城は池田輝政が関ヶ原合戦の翌年から8年がかりで築いた大城郭で一説には2,500万人以上を動員したと言い、豊臣秀吉が以前に築いた三層の城を今の城郭に築き直しました。標高46mの丘陵姫山に建つ平山城です。白鷺城とも言われ、空を突く天守群と美しい白壁の広がり、今にも舞い立つとする白鷺を思わせます。築城当時に普及していた火縄銃の射撃によっても延焼しないように白漆喰塗籠の技法が採用され、それが白鷺を連想させる美しさを生みだしています。このように城の戦う仕組みがそのまま城郭美になり、この点が姫路城の精巧な建築すべてに通じています。純白を装った美

しさの中に攻め入って来る者を討つ仕組みをしたたかに秘めている城なのです。

そのような姫路城も過去には幾多の危機がありました。1615年の一国一城令、明治時代の解体案、そして戦争など、様々な危機を乗り越え、辛くも生き残ってきたのです。まさに奇跡と言えるのではないのでしょうか。

丁度、私たちの訪問時、天守閣は改修工事の直前で5年間シートに覆われる為、大勢の人が訪れていました。その姿は別れを惜しむかの様でした。5年後再び、あの雄姿を見るのを楽しみにしています。

NO.025 琉球王国の隆盛を物語る場所 中城城跡



護佐丸が増築した三の郭

Personal Data

賛助会員

豊崎 美紀

(名古屋市 世界遺産検定マイスター)

世界遺産に登録されている場所に初めて訪れたのは、ヴェネツィアで、随分と旧い話になる。正確には、1987年、まさに「ヴェネツィアとその潟」が世界遺産に登録された年であった。もちろん、当時はそんなことは知らず、観光先の一つとしか捉えていなかった。もっと言えば、運河の臭いに辟易し、海水で水浸しの「サン・マルコ広場」にもうんざり。街全体の印象は、あまり良いとは言えなかった。よほど、ミラノのドーオーモの威風に圧倒され、感激した印象のほうが強い。

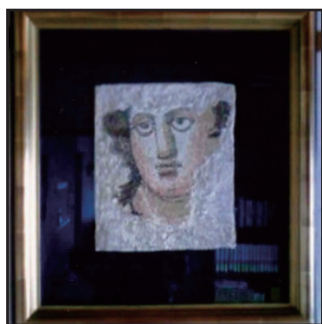
そのような理由で、本当の意味での世界遺産との出会いは、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」である。4年前、最初に訪れた「座喜味城跡」には驚いた。どちらかと言えば地味な史跡であるのに、いい意味で期待を裏切られる形となったのである。ま

ず、城壁に登った時の眺望が素晴らしい。大きく広がる海を見下ろし、そこを行き来した当時の船の様子を想像しながら深呼吸すると、潮の香りが内地とはまったく違っている。その空気感は別次元のものがあ、かつて異なる文明がここに存在したと確信することのできる場所である。

写真は、昨年訪れた「中城城跡」。城壁の石積みが見事だった。次回の沖縄訪問の際には、すべてのグスク群を回るつもりでいる。

最近、ようやく名古屋在住のマイスター仲間と知り合う機会を得たので、今後は、その輪を広げつつ、中部圏発信の活動を何かできないかと模索中である。

NO.026 この人だあれ？ アクィレイア復刻モザイク



古代ローマのイケメンだろうか！

Personal Data

岡本 昭市

(東京都 世界遺産検定マイスター)

北イタリアの古都ラベンナで、サンピターレ教会やガラ・プラチディア聖廟など、最高の初期キリスト教モザイク芸術の世界遺産（1996年登録）に心を洗われたあと、ふと立ち寄った工房の奥に、「彼」はいた。

説明書には、アクィレイアのバジリカにあるローマ人の頭部の復刻モザイクとある。世界遺産アカデミーのテキストの解説では、このバジリカは4世紀に建てられ、11世紀に再建されたという。登録は、1998年で、ラベンナ同様ビザンチンの色合いが濃い遺産だが、憂愁を帯びた天使のような「彼」の顔立ちには、なんとなくもっと昔の古代ローマの面影が感じられてその場で買ってしまった。

当時のお金で4万円ほど。初めての夫婦海外観光の中途とあって、そこから先が一苦労だった。重い。

かさばる。壊れもの注意。トランクの真ん中に衣類を何枚もあてがう。帰国後の荷解きで傷一つなかったのは、あるいは神のご加護かも。

額縁に納めて居間の壁に飾って大分たつが、残念ながら日本ではアクィレイアについての資料はきわめて乏しく、「彼」の詳しい身元もつかめぬままにいます。イタリア政府観光局のエンリコ・マルコーニ東京支局長も、「日本人にとっては最も遠いイタリアの文化遺産の一つ」と解説しているくらいだ。

アカデミーの皆さん、何とぞ迷える子羊の悩み解決に光明を与えたまえ。

世界遺産検定勉強法アドバイス

「マイスター受検生の手記」より

藤村 旬(三重県 世界遺産検定マイスター)

「マイスターを受検してみよう」と決断したのは、9月に入ってからでした。(試験は11月29日でした)私がやったのは、世界遺産検定事務局から「マイスター試験のお知らせ」とともに送られてきた「過去問」に沿って予想問題を作り、答案を書いてみることでした。

1.(基本用語)は、21の語を選び出し、答案を作りました。

2.(ユネスコの「世界遺産」理念)については、8つほどテーマを見つけて、ウェブ・マップ(キーワード等を線で結んだ図)を作ってみました。また、インターネットで「世界遺産条約」を調べ、読んでみました。

3.(世界遺産の保護・保全について、解答者の意見を問う問題)については、ある

本を二度読み、それをもとにして、「世界遺産の保護・保全について」というテーマで、1200字で書いてみました。

ある本というのは、元ユネスコ事務局長・松浦晃一郎氏著の「世界遺産～ユネスコ事務局長は訴える」です。この本は「世界遺産の保護・保全」及び「ユネスコの理念」について、多くの知見を与えてくれました。

なお、これらの受検準備の経過は、私のウェブ・ページ「しみじみヶ丘」内の掲示板「マイスター受検生の手記」(のちに「マイスターの活動記録」に改題)に掲載してありますので、ご覧いただければ幸いです。

さて、結果なのですが、基本用語一つが予想問題から外れていた他は、すべて予想問題に入っていました。

マイスターを受検して良かったことは、勉強を通して、「人類の源は一つ」と掘めたと考えることです。今後、それを根本に置き、マイスターの活動ができればと考えています。



「紀伊山地の霊場と表詣道」奥駆けの道「太古の辻」にて

検定との出会いからマイスター到達までの道のり 千葉 深春(賛助会員 北海道 世界遺産検定マイスター)

偶然見た吊革広告で興味を持ち、2008年夏2級検定から私の世界遺産勉強が始まりました。

【2級】試験日まで時間がなく万全の準備は出来ず、過去問を中心に公式テキストに目を通しました。

【1級】なじみのない登録物件もあり、公式テキストを何度も読みました。最初は3巻も覚えるのは絶対無理と思いましたが、繰り返し読むことで記憶に残るようになりました。1級まではテキスト習得で合格点に到達すると思います。気分転換を兼ね世界遺産関連TV鑑賞もお勧めです。映像で記憶が刺激されます。

【マイスター】世界遺産に対してしっかり

自分の考えを持っているかが問われます。2時間は焦るとあつという間です。前年の問題を参考に例題を作り、時間内に制限字数で自分の考えをまとめる練習を続けました。マイスターを目指す方は、記述に慣れましょう。1200字や400字で自分の意見をまとめ回答用紙に書くのは案外時間がかかります。せっかく良い意見でも、回答用紙に時間内に記述出来なくては勿体ないです。世界遺産のニュースや書籍を通して常に問題意識を持つことも大切です。テキストの基礎知識部分も用語問題で役立ちます。準備の結果、当日は緊張しましたが、なんとか自分の考えをまとめ記述出来ました。

マイスター試験は地方にはなく、当初は受

験するか迷いましたが、改めて世界遺産の本来の意義を真剣に考える機会になり、今は東京まで受験しに行き本当に良かったと思っています。



白川郷・五箇山の合掌造り集落(萩町)2009年夏

編集後記【まさかの中国添乗指令】

大学卒業して、入社2年目の私は、学生に毛の生えた程度の社会人で、明るさだけが取り柄の営業マン。会社もまだ規模も小さく家族的な雰囲気の中で、本業以外の仕事も「何事も経験」の一言で次々回ってくる。1987年年末、日中青少年交流大会の添乗員として、関西の高校ダンス部を率いて中国へ行かされることに。当時の中国は、とても自由な空気はなく、人民服で小銃を持った衛兵があちこちに立っており、北京は凍るような寒さどこか緊張感に包まれていた。未経験の私に海外の添乗員を任せる会社も会社だが、現地では、北京大学の通訳は、日本語話せないわ、移動中に寄った店でうちの団だけ食事の用意は

ないわ、上海で公演の際、テレビ中継中に出番は間違えるわ、添乗員なのに集合に遅れ、団の監督からこっぴどく怒られるわ、これぞ「経験」の毎日。観光で行った万里の長城は、一観光地としての認識しかなく、どれほどのものか理解していなかったことは、今となっては残念だが、建造物としての凄さより、権力の怖さ、人間の愚かさを見せつけられた気がした。城壁は、かなり傾斜がきつく若かった私でも息が切れたことを憶えている。そして帰国翌年、「ラストエンペラー」が大ヒット、その翌年に天安門事件、その場にいたことが信じられないシーンをニュースで見るたびに、あらためて近くて遠い国を感じずにはいられなかった。

(WHA 鈴木)

世界遺産アカデミー
WHAMR
メンバーズレポート

2010年 夏号 第8号
発行日 2010年7月16日
発行元 特定非営利活動法人 世界遺産アカデミー
〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋1-1-1
パレスサイドビル9F
電話 03-6212-5020
FAX 03-6212-5022
URL <http://www.wha.or.jp>
E-mail member@wha.or.jp
発行人 愛知 和男
編集長 安藤 登